

経営比較分析表（平成30年度決算）

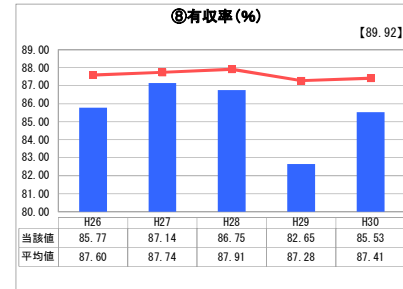
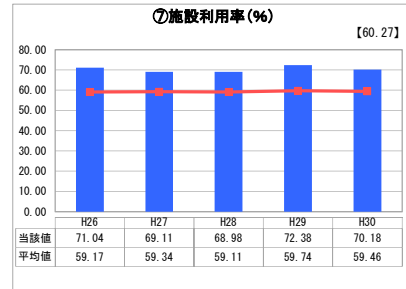
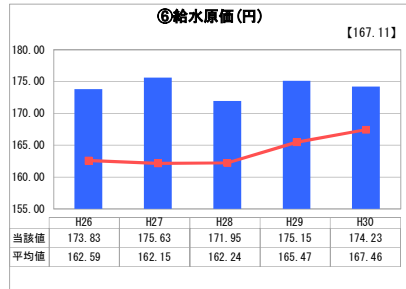
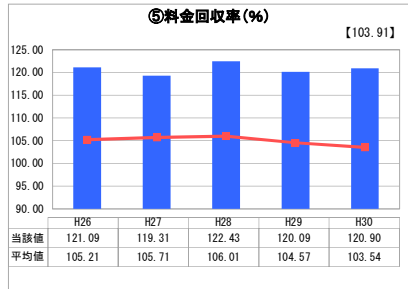
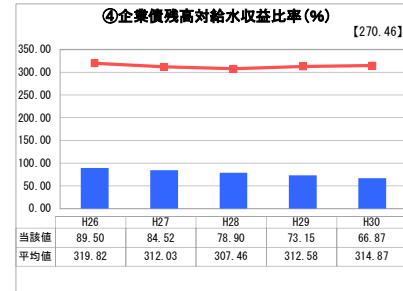
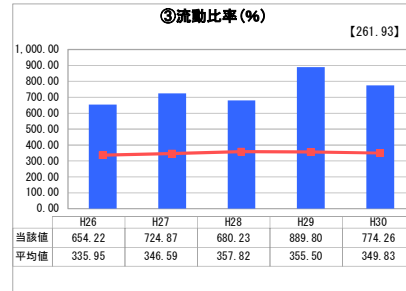
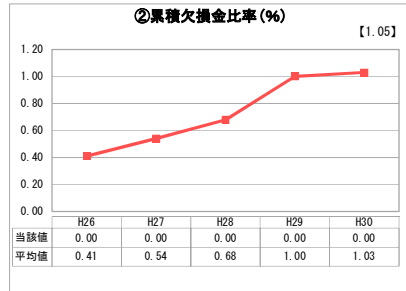
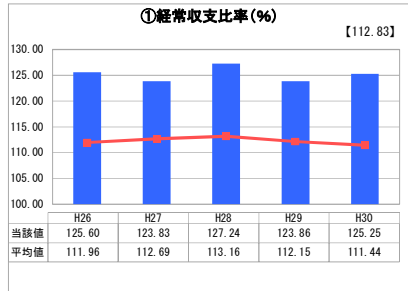
山形県 米沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.53	100.31	3,445	

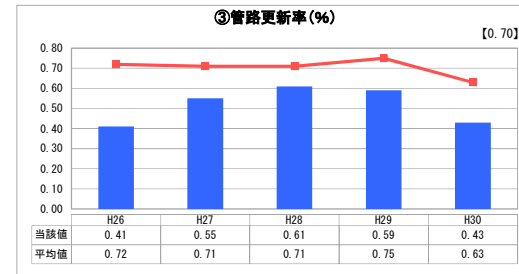
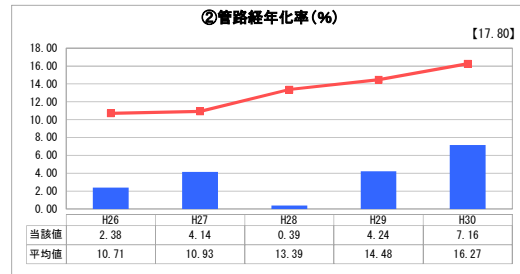
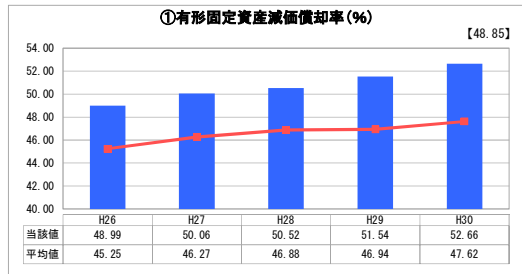
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
80,927	548.51	147.54
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
80,564	116.45	691.83

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤料金回収率は100%を超えており、かつ類似団体と比較しても高い水準にあることから、経営の健全性が確保できている。
 ④企業債残高対給水収益比率は類似団体より低い値を継続的に維持しており、企業債に頼らない健全な経営状態にある。今後も効率的、計画的な経営により更新投資に充てる財源確保に繋げる。
 ⑥給水原価は、配管100m当たりの給水人口が類似団体と比べ少なく、配水に係るコストが高いため、高い状況となっている。
 ⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回ってはいるが、⑧有収率は例年平均値を下回っており、施設の稼働が有効に収益に反映しているとは言えない状況である。早期に原因を特定するとともに、引き続き計画的な管路更新と定期的な漏水調査を行い有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比較し、やや高い水準にあるとともに、毎年上昇しており、老朽化した施設・設備を計画的に更新していく必要がある。
 ②管路経年化率は低い水準にあり、③管路更新率も類似団体と比較して低くなっている。近い将来、第7次拡張事業期（S56～S60）に急速に整備された管路が一斉に老朽化し、管路経年化率が大幅に上昇することが予想されるため、アセットマネジメントの活用等により、計画的かつ効率的な施設・設備の更新を行っていく必要がある。

全体総括

経常収支比率、流動比率、料金回収率等が、類似団体と比較して高いことから、現状では経営の健全性は保たれているといえる。
 しかし、今後は人口減少等による給水収益の減少が見込まれるため、資産の適切な維持管理や、周辺団体との広域連携を含め、施設の統廃合やダウンサイジング等の更新を行い、更なる経費削減に努める必要がある。
 また、有収率の向上を図るため、老朽管更新工事や漏水調査を積極的に行っていく。